

ホンモロコの産卵状況と低水位の影響

臼杵 崇広

◆背景・目的.....

これまでに、本研究により5月中旬から6月中旬にかけて琵琶湖水位を人為的に低下させる操作が生残するホンモロコ卵の割合を低下させていることを明らかにした。今年度も水位変動の影響を把握するために産卵状況を調査し、より良い水位操作について検討した。

◆成果の内容・特徴

- ・前年と同様にホンモロコの産卵状況を調査した結果、産着卵は湖北町では平成19年5月1日から6月18日まで、西浅井町では4月16日から6月18日まで確認され(図1)、産卵のピークは前者では5月下旬および6月中旬、後者では5月上旬であった。気温が春先まで平年より高めで推移したため、産卵期間が例年より早い傾向にあったと考えられた。
- ・調査期間中の調査水域におけるホンモロコの総産着卵数は湖北町(湖岸距離約100m)で70.3万粒、西浅井町(同約20m)で62.3万粒と推定された。
- ・琵琶湖水位は4月中旬から6月中旬までおよそ-10cm~-20cmと低水位で推移したため、例年の主要な産卵場が干出した。
- ・西浅井町では産卵早期に深所のヤナギの房状根に産卵が集中したため、卵位置から推定した生残卵の割合は82.9%と例年になく高かったが、過密により卵の状態が悪化したため、ふ化率は低下したと考えられた。

◆成果の活用・留意点

十分な産卵場面積を確保し、ホンモロコの初期減耗を低減させるためには、産卵期間中の水位を高く維持する必要がある、水位を上昇させる水位操作の可能性についても検討する必要がある。

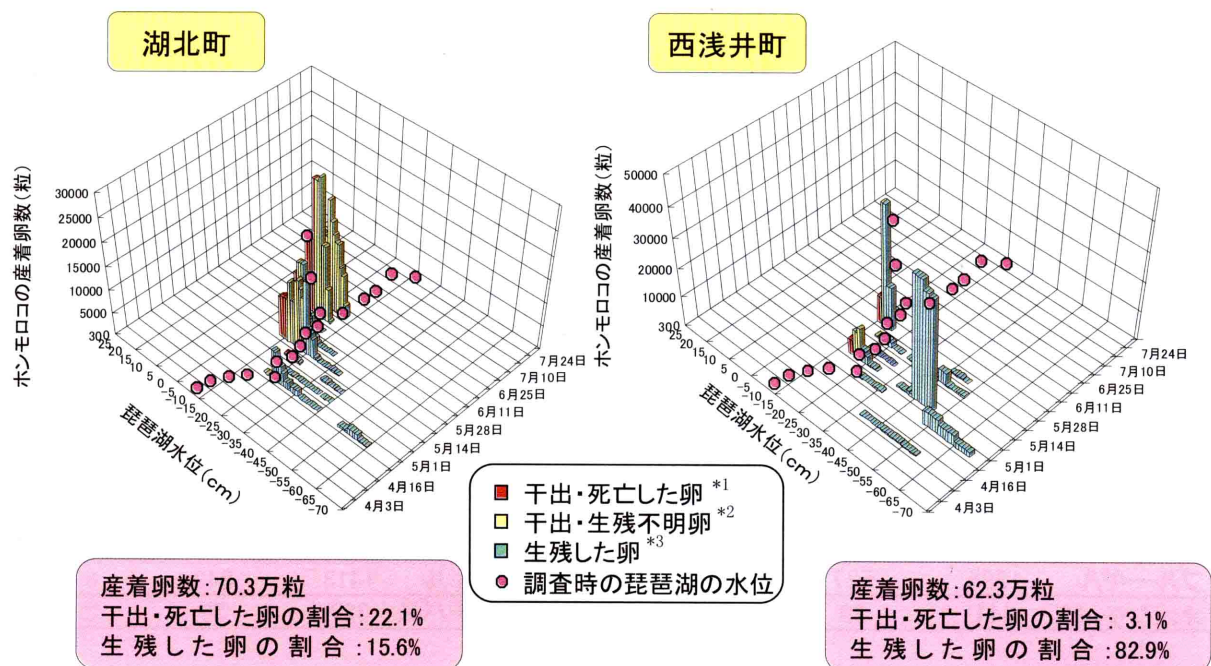


図1. ホンモロコの水位ごとの産卵状況と卵の干出状況.